

事業名

繋がろう興東、育てよう「興東ブランド」

目標

三自治会が興東地域の名の下に、誇りをもってまとまる。

1. 取組の視点

今年度は、まず、組織づくりからはじめました。前年度、硬直化して非常に動きにくかった組織を改善し、事業が効果的に運営できるようにコーディネーターの配置や実行委員会を新設する取組を推進しました。また、地域連携を一層推進するために、「繋がろう興東 育てよう興東ブランド」を合い言葉に、興東フェスティバルや興東小学校の開校式典など、学校を知ってもらうための取組を企画しました。興東中学校区の三地区が協働して活動することにより、この地域の良さを再発見する機会としました。また1年の取組を振り返る意味で、まとめの会も組織し、今年度の取組を振り返り、広報しました。

2. 取組の概要

①興東フェスティバル

地域全体で子どもを育て、興東地域の良さを再発見するために、地域住民が参加できる「興東フ



ェスティバル」を開催しました。興東小学校での開会式のあと、幼稚園と小学校の発表をしました。10時30分からバスで中学校に移動して、中学校の文化祭発表や展示を見学してもらいました。昼食後は地域人材による11種類の体験講座を実施しました。当日は、前日からの雨で参加人数が心配だったが約330人が来校され、盛大に実施することができました。この取組を実施するためには、会場作りや昼食製作販売等に活動したボランティアのおかげであると感じています。

②興東小学校の開校式典

今年度は、相和と大柳生の小学校が統合され、地域の念願であった興東小学校が誕生したので、11月23日に開校式典が行われました。新たな小学校の誕生を、小学校・幼稚園・中学校・地域の方々300名を超える人が、お祝いするため、参加しました。幼稚園児・中学校生徒も「マルマルモリモリダンス」で式典に参加し、中学生が園児の世話をしながら活躍する姿は、実にほほえましく、興東校区が1つになったと感じていただくことができました。その後のアトラクションでは、奈良フィルハーモニー管弦楽団のコンサートを地域の方々と鑑賞して楽しいひとときを過ごしました。



3. 成果と課題

今年度の成果は、この行事を実施することにより、「興東地域」として絆を深めることができたことです。3地区にはそれぞれの深い歴史や文化があり、高齢化がすすみ、住民の入れ替わりもないことから、変化や新企画に、素早く対応することが得意でない印象があります。しかし今年度の子どもたちを中心にすえた企画により、地域全体で子どもたちを育てていこうという気運が高まったことは大きな成果です。また、コーディネーターの担当を決めて実行委員会形式にしたことも、興東地区地域教育協議会の活動を推進するきっかけづくりになりました。次年度は、もっと地域の良さを知ってもらう取組を企画していきます。

事業名

繋げよう興東 発信しよう「興東ブランド」

目標

興東地域に生まれた誇りや、自分の夢を発信できる子ども作り

1. 取組の視点

本校は全校生徒 38 名という小集団の学校です。地域も過疎化や高齢化がすすみ、学校教育の課題も多いですが、全世帯数 850 戸の地域全体が親戚のようであり、在校生全員が兄弟のような環境での手厚い教育が魅力でもあります。

話し合わなくても通じるという環境のためにコミュニケーション力の不足があります。切磋琢磨するための環境不足という課題を補うための取組や、人見知りで世間知らずなのではないかと

**【地域の人たちと蕎麦を打つ生徒たち】**

いう自信のなさを解消するために、自らを表現でき、発信できる場をつくるような取組を今年も行いました。

2. 取組の概要

体験を増やすために、地域人材をできるだけ活かして様々な取組を行いました。「お辞儀の仕方から学ぶマナー講習会」「面接等ビジネスマナー講習会」「世界遺産学習を含む地域学習」伝統芸を学ぶ「透かし彫り体験」「陶芸茶碗作り」「いけばな教室」「篆刻教室」キャリア教育の一環として行いました。「プロに学ぶ中華料理講習会」地域の伝統を学ぶ「そば打ち体験」、経験を広げるために行った「人と防災未来センター見学」などです。

また、地域との交流を深めるための環境整備活動として、テスト最終日に行う「通学路清掃」「花いっぱい運動」ボランティア活動も行いました。

しかし今回、特に成果があったと思われる取組

は中学校の文化祭と同時に行われた地域教育協

**【新聞社の取材を受ける生徒たち】**

議会主催の「興東フェスティバル」と興東小学校開校式典での中学生の活躍でした。

興東フェスティバルでは大柳生幼稚園児・興東小学校児童と一緒に活動することで、330 人の参加という、今までにない大勢の観客の前で、劇やHPの発表を行うことで中学生たちの自己肯定感が高まりました。また、それにより、その後の開校式典に生徒全員が意欲的、積極的に参加することになり幼・小・地域・来賓などの会場全体を巻き込むパフォーマンスができ、手ごたえを感じ、地域のリーダーとして、自信を深めることができました。

3. 成果と課題

地域再生の要として、今年度の本校の取組は高く評価されました。園児や児童をサポートした中学生の取組は興東地域らしい、温かく、心遣いを感じる素晴らしい姿であると、学校関係者以外の地域の方からも手紙で感想をいただきました。

2 月末にはフェスティバルで発表した 3 年生のホームページ作品が「第 11 回修学旅行ホームページコンクール」の優秀賞を受賞し、新聞社の取材を受けました。今後も世界に「興東ブランド」を発信できる実力とスキルをつけていってやりたいです。**(作品は興東中学校ホームページからアクセスしてください。)**

事業名 興東小のなかま 地域に学び地域を興せ

目標 地域の多様な人と出会いをもとに地域と連携・協働を目指す

1. 取組の視点

地域の多様な人との出会いを大切にするとともに、地域の教育力を最大限に受け本校教育を推進しています。なかでも、米作りを主とした体験学習をはじめ、古来より伝えられる伝統文化を軸とする地域学習をする中で、地域を知り郷土愛を育ませること、また学んだことを誇りとして知徳体を備えた社会に通用する人を目指す児童の育成に取り組みたいと考えます。また、情報化が進む今日、全国各地・各場面でコミュニケーション能力の低下が取りざたされているなか、児童はもとより教員も国語・英会話等の向上を図る必要があると考え、それらの授業研究を行いました。

2. 取組の概要

【米作りを主とした体験学習と伝統文化を学ぶ】

5年生が取り組んだ“米作りは”、田おこしに始



まり、田植え・草取り・稲刈り・脱穀等収穫に至るまで、昔ながらの農法を主としたものでした。年間を通して地域の方々に支援していただく中で農業・科学技術・努

力、そして協力の大切さを知り感じることができました。そして、今日、目にする機会も減少した“苺の育成と収穫”、“養蜂農家での蜂蜜採取と蜜蝋を使ったろうそくづくり”、“落花生の栽培と収穫”等の貴重な学習体験を行うことができました。地域に伝わる伝統行事“大とんど”を地域民生委員の方を中心に、幼稚園児も参加し盛大に実施で

きました。“大とんど”の謂れを学ぶと共に、“お餅つきとかき餅づくり”、“注連縄づくり”等を学ぶことで地域に誇りを持ち、さらに視野を広げる教育活動につながることが出来ました。

【学力向上】社会に通用する人を目指しての児童



の育成は、まず地域や本校に関わりのある方を、ゲストティーチャー

として招き、学力向上とコミュニケーション能力の育成に取り組みました。特に国語科は本校の研究主題ともリンクさせるなかですすめました。

3. 成果と課題

統合1年目であり統合前の2校の学習を偏りなく取り入れ教育活動をすすめました。来年度は本年度の実践より精査精選し、一層魅力ある効果的な学習内容を展開したいと考えます。とりわけ、恵まれた地域の多種多面的な教育力を、一層地域の宝である子どものために支援していただくための諸準備を行いたいと考えます。

また郷土愛をさらに育成するためにも「郷土なら科」と絡めて校区の歴史を学ぶ機会を設定したいと考えます。

児童数増による「学び合い、高め合う教育」をすすめるために、発表・発信の機会の増加を検討していきたいのです。つまり、“地域からの学び”を“校内での発表会”、また“児童から地域へ発信”することが必要であると考えます。そのことが“学校と地域の協働・連携”につながるのです。

事業名

「いのち あい ゆめ」はばたけ大柳生っ子

目標

豊かな心をもち、主体的に活動する幼児を育む。

1. 取組の視点

過疎化や少子高齢化が進み、少人数で住居が遠隔しているため、人とかかわりや経験の幅が狭い傾向が見られます。そこで園内外の環境（人・物・自然）とのかかわりから、興味を広げいろいろな感動体験を積み重ねることで豊かな心を育て主体的に活動する幼児を育てたいと考えました。様々な人と刺激し合い、コミュニケーション能力を育て自己発揮する力や抑制する力の基礎を培いたいと願い、多くの同年齢や異年齢の人々との交流を計画し実践してきました。

2. 取組の概要

地域や保護者とともに

地域の方々に、小運動会、夕涼み会、運動会、餅つき、生活発表会、昔遊びの会、園内作品展などの案内や参加、協力を呼びかけてきました。また、地域の方に幼稚園に来ていただき、地域の教育力を保育に取り入れる取組として、おはなしの会、わくわくABC、お茶会を計画的に実施しました。どの活動にも大勢の方が参加していただき、子どもたちと一緒に遊んだり、子どもたちの様子・成長をみたりしていただきました。多くの方に見てもらったりほめてもらったりすることで自信につながり、のびのびと自己発揮できるようになってきました。今年度から始めたお茶会では、地域のお茶の先生に礼儀作法から立ち居振る舞い、お茶の点て方飲み方などを教えていただきました。2月には親子での参加とし、子どもたちの点てたお茶を保護者の方に味わっていただきました。保護者の方は、ゆったりと落ち着いたお茶会の雰囲気を楽しみ



ながら、姿勢よく正座して話を聞いている子どもたちの姿に成長を感じていただきました。

各家庭で祖父母等は野菜作りをされていても、父母の方はほとんど経験がないのが実情です。幼稚園で親子で栽培活動や収穫祭をすることで、小さな種や苗から育つ不思議さや生長の楽しみ、収穫の感動、みんなで一緒に食べる喜びなどを友だち・保護者・地域の方々と共有することができました。

各町で行われた秋祭りに参加し、御輿に興味をもった子どもたちは、みんなで御輿をつくり引いて遊びました。はちまきや法被など必要な小物も作り、『チョーイソラ』げんきなかけ声



に合わせて太鼓や笛を鳴らしながら練り歩き、青少年長一緒にお祭りごっこを楽しみました。1月には“大とんど”にも招待していただき、地域の行事に興味や関心をもち、地域のよさを感じることができました。

3. 成果と課題

幼稚園・保育園・小学校・中学校・地域など様々な人々と交流を繰り返したことで、すすんで挨拶をする、人の話を落ち着いて聞く、好きなことに集中して取り組む、様々な人とかかわりを楽しむ気持ちや周りの人と支え合う気持ちなどが身に付き、豊かな心が育成されてきています。また、地域の人々の温かさや地域のよさも感じることもできました。さらに交流を継続していき、地域を好きになり、ここで育つ自覚やほこりをもった子に育ててほしいと考えています。また、幼稚園教育をさらに多くの方に知っていただくために発信の仕方を工夫していきたいと思ひます。